



令和元年産米の収穫風景

当JA管内各地区では、令和元年産米の収穫作業が順調に進んでおり、集荷施設にはコンテナなどが次々に運びこまれている。

今年は平年に比べて天候がよく、気温も高く推移したため、水稻の生育は平年に比べてやや早く、9月1日現在で平年に比べ3日早い生育となっている。刈り取りは8月27日の納内地区より始まった。

今年の集荷量は管内全体で約73万俵を見込んでいる。

JAきたそらちでは、ホームページとFacebookで、魅力満載の情報を発信中です！ ぜひ、ご覧ください！



～目 次～

- ◆ 令和元年産米 各地区初出荷 ——— 2
- ◆ 深川・幌加内で新そば祭り ——— 3
- ◆ ふかがわまい生産組合 設立総会 — 4
- ◆ 各給油所に自家発電装置を導入 ——— 9

深川支所（納内地区）9月4日



【納内】谷岡 勤さん（左から3人目）

深川支所（一已地区）9月5日



【一已第一】本瀬 修二さん（左から3人目）

深川支所（音江地区）9月6日



【内園】加賀美 勇さん（中央）

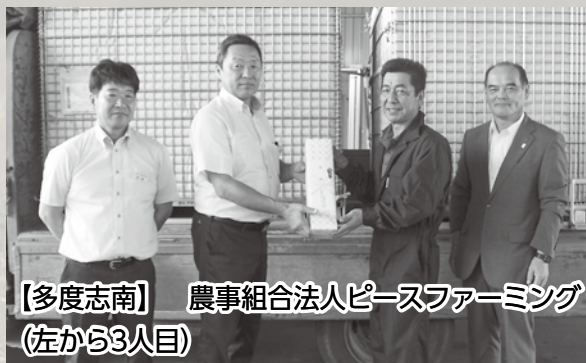
深川支所（メム地区）9月9日



【巴】志土地 泰次さん（中央）

令和元年産米 各地区初出荷

深川支所（多度志地区）9月9日

【多度志南】農事組合法人ピースファーマーミング
（左から3人目）

北竜支所 9月13日

【西川】（株）藤井ファーム（左から2人目）
【西川】藤井 啓二さん（左から3人目）

雨竜支所 9月17日



【西】長原 廣幸さん（左から2人目）

幌加内支所 9月20日

【幌里】古林 茂さん（左から3人目）
【幌中】富山 尚久さん（左から4人目）



ふかがわ新そばフェスタ 2019

8月25日、深川市文化交流ホールみ・らい特設会場で「ふかがわ新そばフェスタ2019」が開催された。ソバ作付面積全国2位である「深川産そば」をPRするため、毎年新そばが収穫されるこの時期に開催しており、今年で5回目の開催となった。

同市の多度志地区や北竜町、妹背牛町、札幌市のそば愛好家団体計4店が出店し、8月中旬に多度志地区で収穫されたばかりの「キタワセソバ」を使った手打ちそばをそれぞれ販売した。午後に入ると完売する店舗が相次ぐなど大盛況だった。また、(株)深川未来ファームによる深川ポークを使った豚丼の販売や、当JA青果部によるメロンとすいかの試食も人気を集めた。

ステージでは毎年恒例の早食い大会が開催され、市内外から参加した8名が大盛りの「天ぷらそば」や「そばめし茶漬け」を口いっぱい頬張りながら優勝を競い合い、会場を盛り上げた。



第26回 幌加内町新そば祭り

8月31日と9月1日の2日間、そばの作付面積日本一を誇る幌加内町で、「第26回 幌加内町新そば祭り」が開催された。道内外のそば店やそば打ち愛好家団体など14店舗が出店し、収穫したばかりの幌加内町産「ほろみのり」を使用したそばなどを販売した。2日間で約4万人の来場者が訪れ、獲れたて打ちたての新そばを食べ比べながら楽しんだ。

そのほか、自分で打ったそばを持ち帰ることが出来る「そば打ち講習会」も人気を集め、旭川市から参加した女性は、「ずっとやりたかったそば打ちを体験することが出来て良かった。そば打ちのコツをつかむため来年も参加したい」と感想を述べた。「北海道素人そば打ち名人大会」には、道内だけではなく福島県や京都府などからもそば打ち愛好家が集まり腕を競い合った。

屋外ステージでは、そば早食い大会やものまねシンガー荒牧陽子さんのライブステージなどが行われ会場を盛り上げた。

当JAでは、そば部会がそば農機具の展示会を行い、並べられたコンバインの前では訪れた親子連れなどが記念撮影を行っていた。また、きたそらちのんにく生産協議会による深川産生にんにくのすくい取りは初日で完売するほど大盛況だった。



深川市で

稲刈り体験ツアー



9月14日、(株)ラルズとホクレン主催の「稲刈り体験ツアー」が当JA柏木孝文組合長のほ場にて開催され、札幌市の親子など13組35名が参加した。

販売部職員から鎌の使い方を教わった参加者は、「鎌を上手に使うのは難しいけど楽しい」と黄金色に実った稲穂を次々に刈取り、体験後には子ども達から、「面白かった」「もっと稲刈りしたい」という声が聞こえた。昼食時には新米の深川産「ななつぼし」が用意され、参加者は思い思いの形におにぎりを握り「おいしい」と収穫したての味を堪能した。



「ふかがわまい生産組合」設立



販売部

8月29日、深川市産米の認知度向上やブランド産地としての地位確立などを目的に「ふかがわまい生産組合」が発足し、同市内の水稲生産者をはじめ、山下貴史深川市長、空知農業改良普及センター職員、当JA役職員など約50名が出席のもと、営農センターで設立総会が開催された。

深川市内においては水稲生産者全体を網羅する組織体が無く、米の販売を強化するためには生産者が一体となった取組が必要であると考え、同市内の水稲生産者が平成30年7月に「深川米生産組織設立検討委員会」を立ち上げ4回にわたって協議。その後、組織設立に向けて具体的な協議へ進む「設立準備委員会」に移行し3回にわたり協議した末、発足に至った。同生産組合は同市内で「ななつぼし」「ふっくりんこ」「ゆめぴりか」の3品種を作付する生産者によって構成され、行政や青年部、JAが一体となった組織運営を目指していく。

議事では、規約や事業計画、予算並びに組合費の徴収方法などが原案通り承認された。また同市内の5地区からそれぞれ2名ずつが役員に選出され、互選の結果、一已地区の伊藤裕美さんが組合長に選出された。

伊藤組合長は同生産組合の発足にあたり、「令和元年度産から『ふかがわまい』としてしっかり販売促進活動を行っていきたいと考え、出荷直前の時期ではあるが発足に至った。10月に市内で開催される『こめっち新米フェスタ』でも、生産組合として『ふかがわまい』をしっかりPRしていきたい」と話す。



第15回 JAきたそらち女性部合同研修

8月23日、第15回女性部合同研修を札幌市で実施し、各支部から部員76名が参加した。

来年の3月をもって閉館する北海道四季劇場にて「リトルマーメイド」を観劇。地上の世界に憧れる好奇心旺盛な人魚姫アリエルが人間の王子に恋をしたことから始まる物語は、まるで海の中にいるように見事に表現されており、また自由への探求心や家族愛などメッセージ性もあり、ディズニー映画と一味違う煌びやかな世界観を満喫した。

今回は76名の部員のほか、可愛らしいお子さん2名にも参加していただき、収穫前の楽しいひと時を過ごした。

【営農企画課 墓田】



農業
振興部

女性部音江支部 視察研修を開催

JAきたそらち女性部の各支部では毎年視察研修を行っている。個人では中々行くことの出来ない場所での様々な体験を女性部活動や農作業に活用している。

音江支部では7月29日、三笠市の三笠高校レストランと栗山町的小林酒造で視察研修を実施した。

【営農企画課 墓田】



三笠市 三笠高校レストラン



栗山町 小林酒造



女性部



「さくらカレッジ」開催

女性部では毎年、“きらきら輝ける素敵な女性”を目指し『さくらカレッジ』を開催している。今年は、8月26日に「腰痛・膝痛を楽にしよう！～膝痛・腰痛予防のための運動～」と題した講習会を開催し、14人が参加した。

深川市健康福祉課の保健師を迎え、日常生活や農作業などでも痛めがちな「腰・膝」に重点をおき、痛くなる仕組みや予防方法などを学んだ。日常生活に取り入れやすい「ながらストレッチ」を参加者全員で行い、少しの時間・少しの回数でも日々「筋肉を減らさない」ポイントも学んだ。

参加した部員は、他支部の部員との会話を楽しみながら、体と心を健康にするヒントを学び充実した時間を過ごした。



【営農企画課 墓田】

農業
振興部

北海道大学とJAグループによる包括連携

「農業・農村を学ぶ」



2018年から、北海道大学とJAグループにおいて「食と農を中心とする北海道社会経済の貢献」というテーマから連携を結んでおり、5つの分科会に分かれ交流会を実施している。

当JAでは今回、8月19日～21日の3日間、「第5分科会（人材交流・人材育成）課題解決インターンシップ」を連携テーマに、農業・農村社会の実態について触れ合い、課題の発見や協同について学ぶ研修会を実施。当JA青年部や新規就農者、北海道大学生、JA北海道中央会職員、当JA役職員など計36名が参加した。



参加した。

研修会では、農村地域で課題となっている人口減少についてグループワークを実施し、青年部・新規就農者を中心に「地域をどのように盛り上げて、どのように地域に人を呼び込むか」について真剣に議論を重ねた。

最終日には、北大生より新たな視点で地域に人を呼び込むためのプレゼンが実施され、参加者は真剣に耳を傾けた。

【営農企画課 一戸】

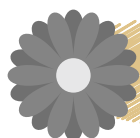
「北育ち元気塾」 第5回研修会を開催

8月29日、北育ち元気塾の第5回研修会が当JA本所にて行われ、元気塾生5名が出席した。

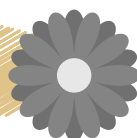
空知農業改良普及センター北空知支所の普及職員より「不稔調査・収量構成要素・刈取り適期」について講義を受け、塾生は穂の粒を一つ一つ数え不稔歩合や一穂の平均粒数を算出し、収量構成要素の求め方を学んだ。引き続き、当JA融資課の佐々木正博課長補佐より「クミカン」の仕組みについての講義を受けた。

その後、北海道農業士 山外明人氏宅(北竜町)を訪問し、複合経営の事例紹介「我が家の経営」について、現在地域で抱えている課題や将来の方向性等の講話を受けた。

【営農企画課 石野】



音江小1・2年生が 「花育授業」



**農業
振興部**

9月12日、北育ち元気村花き生産組合音江支部(内藤敬人支部長、会員22名)が深川市立音江小学校の1・2年生11名を対象に、採花とアレンジメントを体験してもらう「花育授業」を行った。

同授業は、花きの生産が盛んな同地区の子ども達に実際に花に触れて身近に感じてもらうと昨年に続いて実施され、同支部の会員8名をはじめ、空知農業改良普及センター北空知支所の普及職員5名や北空知広域農業協同組合連合会の職員3名が指導にあたった。

この日の午前は、同支部の田中和夫さんのほ場でスターチス・シヌアータの採花体験を行った。田中さんの息子・亮嗣さんから、採花できる花の見分け方のレクチャーを受けた児童は、ハウス内で栽培されている4品種のスターチス・シヌアータをそれぞれ2～3本ずつ摘み取った。

アレンジメント体験は音江小学校内にて行われ、内藤支部長の妻・安美さんが先生となり、フラワーアレンジメントを綺麗に作製するポイントを説明。児童は、採花体験で持ち帰ったスターチス・シヌアータに加え、同支部の会員がそれぞれほ場から持ち寄ったスズバラやコスモスなど15品種を自由に組み合わせて個性豊かな作品を作製した。「きれいに作るのが難しかったけど楽しかった」と笑顔で感想を話す児童もいた。授業の最後には、内藤支部長が「お花は、入学式や卒業式、結婚式など人生の節目で登場します。皆さんが人生の節目を迎えるときには、ぜひお花を使ってください」と話し、この日のために作った結婚式装花を披露した。



音江年金友の会

パークゴルフ大会

8月21日、音江年金友の会（正田貞雄会長 会員452名）が深川リバーサイドパークゴルフ場でパークゴルフ大会を開催し、会員16名が参加した。同会では健康の増進と親睦を深めることを目的として毎年2回開催しており、今回は今年2回目の開催となる。

連日の暖気により芝が深く、ショットの加減が難しいコンディションの中、ホールインワンを出す参加者が2名おり、驚きの声が上がった。参加者は2時間ほどで3コース、27ホールを回った。男性の部は森田隆行さんが、女性の部は吉澤幸子さんが優勝した。

【金融共済音江支所 梅村】

金 融
共 済 部北 竜 支 所
年 金 友 の 会

日 帰 り 研 修 旅 行



9月6日、北竜支所年金友の会（山下好晴会長、会員427名）の日帰り研修旅行が旭川市高砂台「和風旅館 扇松園」にて行われ、会員42名が参加した。

出発時は曇り空だったが、旅館に着くまでのバスの中は会員たちの会話がはずんでいた。到着後、それぞれ入浴やお土産を買ったりと自由に館内で過ごし、山下会長の挨拶と乾杯で始まった会食では、恒例のカラオケやビンゴゲームで盛り上がり楽しいひと時を過ごした。帰りはあいにくの雨にみまわれたが、宴会の余韻でバスの中でも話がはずみ無事帰路に着いた。

【金融共済北竜支所 西村】



各給油所に 自家発電装置を導入



JAの各給油所では、昨年の胆振東部地震による大規模停電を教訓に「自家発電装置」の導入を進め、今回6給油所において導入を完了した。昨年9月の胆振東部地震発生時には、当JAにおいても全給油所の機能がストップし、災害発生時における、地域住民の生活や組合員の営農への影響を最小限に抑えるための対策が急務であるとし、本年春より北海道における補助事業を活用し導入を進めてきた。

今回、自家発電装置を導入したのは、イチヤン・音江・深川・多度志・北竜・幌加内の6給油所で、年内には納内給油所への導入を完了させる。これにより停電発生時においても、給油レーンには制限があるものの、ほぼ通常と変わらない営業が可能となる。

当JA燃料課は、「JAの給油所は地域のライフラインを守らなければならない。日常の営農・生活のサポートはもとより、災害発生時においても組合員・地域住民の生活をサポートするための拠点として万全を期したい」と話す。



安全な技術習得を 軽作業講習会



9月11日、多度志自動車整備工場で、給油所職員を対象に自動車の軽作業講習会を開催した。より安全で事故のない技術習得を目指し、管内各地区の給油所職員5名が参加した。

車両機械課職員が講師を務め、エンジンオイルやタイヤ交換の基礎知識と注意点を学んだ後、正しい工具の使い方を確認しながら実際に交換作業を行った。どの職員もアドバイスを聞きながら疑問等には積極的に質問し、真剣に作業にあたった。

【燃料課 須見】

アルーダ
空知北部

サマーフェア開催

経済部



8月29日、当JAイチヤン整備工場特設会場にて農機具展示即売会「アルーダ空知北部サマーフェア」が開催され、当JA管内・外の生産者など約130名が来場した。

あぜ草刈り機や耕うん機、溝切機に加え、秋作業に使用する粃摺り機や米選別機など約550点の中古農機具が店頭に並び、あぜ塗り機やサブソイラーなど人気が集まった商品は抽選が行われた。来場者からは、「なかなか普段はこんな値段では買えない。安く買えてよかった」という声も聞かれた。



秋の味覚市 & こめっち **新米フェスタ** 「深川！マイ・米・デー」記念イベント

2019/10/19 土 11:00 ~ 14:30
@深川市文化交流ホールみ・らい特設会場
(深川市5条7番20号)

ハロウィンの仮装をしてくと先着でプレゼントがもらえるよ!!

こどもえんにち
11:00 ~ 14:30

フギウギ専務でおなじみ **上杉周大** ライブステージ

深川産新米ごはん無料配布
ごはんに合う逸品がたくさん! (有料)
深川牛・ふかがわポーク・カレー・豚汁等

深川産新米特別販売
イベント限定の特価販売!! 当日 5 kg 以上お買い上げの方には深川産新米 300g プレゼント! (数量限定)

飛び入り! 仮装コンテスト 12:30 ~ 13:15
仮装をした来場者を対象に豪華景品が当たるコンテストを実施します!!

ハロウィンかぼちゃを作ろうコンテスト 11:00 ~ 14:30
ハロウィンかぼちゃを作ってコンテストに応募すると賞品や参加賞などあたります♪ (中学生以下対象)

フラワーアレンジメント教室 12:30 ~ 14:30
ハロウィンかぼちゃを使ったフラワーアレンジメント教室を開催します♪

お得で楽しいイベント等が盛りだくさん
お米すくい・重量当てゲーム・野菜の袋詰め
こめっちグッズ・もちまき等

おれがきつこみゆのステージパフォーマンス

ミフ北海道米をやっくる!

2019年モス式典前奉告 吉原 幸子さん

会場図

深川駅	
← 至妹背牛	至旭川 →
市立病院	文化交流ホール み・らい 中央公民館
GS	会場 P GS

至 R12 深川 IC 道の駅

主催 / 秋の味覚市 & こめっち新米フェスタ実行委員会
問合せ先 / 深川市経済・地域振興部農政課 TEL 0164-26-2255



総代学習会を実施

8月28日、営農センターにて「JAきたそらち総代学習会」を実施し、深川支所各地区から総代87名が出席した。当JAでは今年の5月下旬に総代の改選が行われ、今年が総代としての任期の初年目にあたることから、深川支所各地区の総代を対象に組織基盤強化の一環として学習会を開いた。

当JA総務部の佐藤一久部長が学習会の講師を務め、総代会の基礎知識や仕組み、JA組織の特徴、JAが目指すものなどを1時間にわたって説明。またこれからの総代に求められるものとして、「総代の皆様方から積極的にJAの運営に意見を言っていただき、ともに考動していきたい。組合員や総代にとって良きパートナーであるJA職員とコミュニケーションを取っていただき、ともに考え（共育）、ときには一緒に活動して汗をかき（共働）、よりよい暮らしや地域を築くために役立つJAをつくる（共創）」という姿勢を意識していただきたい」と佐藤部長は話し、総代や組合員にJAの運営参画をもっと積極的にしてもらおうよう呼び掛けた。

同学習会は、雨竜地区で7月5日、幌加内地区で7月23日に実施された。



IAきたそらち野球部 第59回全道IA野球大会へ出場

6月下旬に深川市で行われた第62回空知管内JA野球大会で3年ぶり2回目の優勝を果たした当JA野球部は、8月27日、28日に江別市で行われた第59回全道JA野球大会に出場した。同大会は全15チームによるトーナメント戦で行われ、1回戦目にJA新はこだてと対戦。

初回いきなりの先制を許すも、その裏で伊藤（雨竜支所営農課）の適時打ですかさず同点に追いつき、3回裏でエース堀口（雨竜支所営農課）が負傷交代するアクシデントに見舞われたものの、交代した辻（農産課）の力投や野手陣の粘り強い守りでピンチを乗り切りました。そのまま試合は延長戦に入るも打線が奮わず、9回表には追加点を2点入れられ1-3で惜しくも初戦での敗退となった。今年度の優勝はJA北いしかり、準優勝はJAとまこまい広域となった。

役職員をはじめ応援して頂いた皆様、熱いご声援ありがとうございました。





職員のスキルアップに「自己啓発ゼミ」を開講

9月6日、職場で役に立つビジネススキル等を職員向けに講義する「自己啓発ゼミ」を当JA本所で開講し、役職員51名が出席した。

当JAが今年2月に定めた役職員の行動規範と目指す職員像をまとめた人的資源管理基本方針の中で、人財育成戦略に掲げる教育環境の整備を目的に、職員が相互に切磋琢磨しながら自律的に学習する職場環境をめざし、各スキルを磨く場として開講された。

第1回目は、総務部の佐藤一久部長が「JAという組織の特徴とめざすもの」と題し、協同組合の職員としての固有の役割などを説明。また系統講師としてJA北海道中央会 協同活動推進室 高橋直樹室長が「『新たな協同組合』の創造に向けた組合員との対話運動」と題し、組合員との対話運動の重要性や目的などを説明した。外部講師には、日本農業新聞北海道支所 岡田有紀子次長を迎え、「みなさんの知恵と話題の引き出しに」と題し、職員に同紙を配布し実際に紙面を開きながら、同紙の紙面構成や読み方のポイントなどを説明した。

同ゼミを企画した人事課職員は、「当JAが目指す職員像として掲げる『組合員に、利用者に、地域社会に、そして家族に寄り添うことのできる自立創造型の職員』を目指すべく、今後も場づくりに取り組んでいきたい」と話す。



総務部からのお知らせ

「必ずチェック 最低賃金! 使用者も、労働者も」

北海道最低賃金

北海道内で事業を営む使用者及びその事業場で働くすべての労働者（臨時、パートタイマー、アルバイト等を含む）に適用される北海道最低賃金が次の通り改定されます。

最低賃金額 時間額 **861円**

効力発生年月日 令和 **元** 年 **10** 月 **3** 日

厚生労働省 北海道労働局 労働基準監督署(支署)



石田邦雄の

農業紡ぎ愛

第4回

縁を紡ぎ、人を育む

「北育ち、元気村」の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。いよいよ待ちに待った収穫の季節がやってきました。「豊穣」というに相応しい、まさに「出来秋」であつてほしい、と心から願つてやみません。そうした中、道民の一人として未だ脳裏を離れないことがあります。

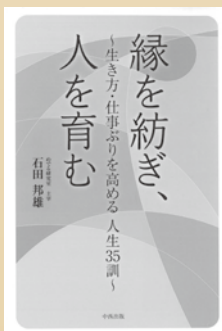
あれは今から3年ほど前。これでもか、これでもかと相次いで北海道を直撃した台風の到来です。私の住む十勝も、収穫を目前に控え、減多めたにやられ、それはそれは無残な姿になりました。私事ながら、その年は人生の一つの節目である古希を迎えた年でした。こうして講師業を生業に、これまで30年近くやってきている私ですが、言葉は発した時点で残念ながら消えてなくなります。

そこでこれを機会に、多少なりとも足跡を残したい：そんな思いもあり、頭に浮かんだのが本の発刊でした。これまでも処女出版となる「人生今が本番いつも本番」を皮切りに、本も何冊か書かせて頂いてはおりますが、最近では出してはいない：ならば、と古希を超えた区切りとして、一昨年の6月に札幌にある中西出版から、表題のタイトルで、副題を「生き方・仕事ぶりを高める人生35訓」として上梓をいたしました。内容はこれまで講師としてメッセージを送

り、その中で話題になったフレーズや、カウンセラー業務を通じて影響の大きかった言葉などをチョイスし、それを35訓としてまとめたものです。ただ、この本を作る過程で、著者として、とても拘ったことがあります。それは表紙です。装丁の段階で出版社の方にこんなことで掛け合いました。「色はとにかくグリーンにして下さい。被災をした皆様に『緑よ、甦れ！』という思いを託して」と。手前味噌になりますが昨年には増刷をされたりして、読者の方々からの評判もよくホッとしています。ペンを走らせるにあたり、どのような層を狙いにしたかという、研修にあまり慣れていない小さな企業でも、何かの参考になればという思いと、朝礼等の訓示などの際にも活用してもらえればという両面からです。お陰でこの2年あまりの間、随分と多くの団体や企業においてご利用頂いており、あるJAからは「この本を参考に体系だった職員研修をして欲しい」という依頼を受けたりもしております。実は貴JAでも今年度にスタートした「サムライ塾」では、この拙著を参考図書として活用しながら進めているところですよ。皆さんの農場等でも人づくりに困った時などは、そこに幾つかヒントがあると思つていますので、よろしければ書店はもとより、Amazonなどを通じて、あるいは

電子出版もされておりますのでお買い求め下さり、活用してくださいと幸いです。

概して、農業者の方々は、本を読んだりするのが苦手な人が多いようです。これからは世間に遅れをとらない為にも、せめて話題になっているビジネス書などには、多少なりとも目を通す：そんな前向きな私達でありたいものです。これはもしかするとJA職員にもいえることかもしれません。その為にも一つ、第三者としてお願いがあります。せめて、こうして月に一度発行され、組合員として必要な情報が満載の、この広報誌には目を通す習慣を身につけてはどうですか？。その上で、それを社内や家庭内においても共有化することです。結果、この「JAきたそらち」が、JAと組合員の皆様を結ぶツールになればしめたものです。なお、欲をいえば、その感想や激励等を担当の方に寄せてあげるとよいですね。すると仕事へのやりがいにも繋がります。そこに善循環構造が出来上がります。こうして互いに、農業を通じて縁を頂いている私達です。それではまた。



【著者】石田邦雄（いしだくにお）氏

1946年北海道新得町生まれ。（有）石田コンサルタントオフィス代表取締役、めでの研究室主宰。国鉄、会計事務所を経て中小企業診断士として独立開業。

現在は社会保険労務士、キャリアコンサルタントとして、組織改革や人材育成に携わる。人と企業のマッチングを目指し、中小企業大学校を初めJAカレッジなど、多くの団体、企業と携わる。「教えるよりも考える」、「学ぶより気づく」を柱に、体験学習を交えたわかりやすい研修が特徴。著書に「産業力コンサルティング」や「縁を結び、人を育む」など多数。



新風



農家後継者



氏名 松本 拓磨 さん
まつもと たくま

年齢 21歳

就農年 平成30年4月

地区 深川支所 一已地区
経営主 松本 孝一さん

経営面積 15・8 ha (水稻・そば)

☆目指す農業

将来について考えたときに、農業はやりがいがある仕事だと思い就農致しました。農業を始めて2年目と日が浅いのですが、日々やりがいを感じながら仕事をしています。これからはさらに楽しく農業経営に携わりながら、多くの人に農業の魅力や楽しさを広めていきたいです！

新規就農者



氏名 濱谷 一行 さん
はまや かずゆき

年齢 37歳

出身地 深川市

趣味 映画鑑賞

研修先 一已地区 (株) ながのふあーむ
代表取締役 長野 靖さん

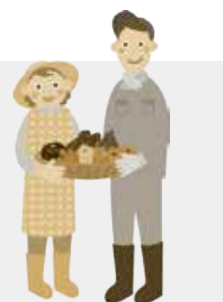
☆目指す農業

幼いころからの夢の一つでもあった農業に就農すべく、勤めていた土木業を退職し、保育園からの同級生であった長野靖氏が経営する「ながのふあーむ」に就農することになりました。就農したばかりで覚えることが沢山ありますが、何でもこなせるようになり、水稻面積と花きの規模拡大を目指している社長の右腕になれるよう、精一杯頑張っていきます！

【新規就農希望者受入農家・新規就農希望者募集】

JAきたそらちでは、新規就農希望者を募集しております。興味がある方は、気軽に下記にお問い合わせをお願いします。

- ◇ 問い合わせ先：農業振興部 営農企画課【TEL：0164-26-0134】
- ◇ ホームページ：<http://www.ja-kitasorachi.com/farmer/index.html>
- ◇ 北海道新規就農フェア：日 時 10月27日（日）
場 所 北海道自治労会館5F大ホール
(札幌市北区北6条西7丁目5-3)
出展地区 深川市・北竜町

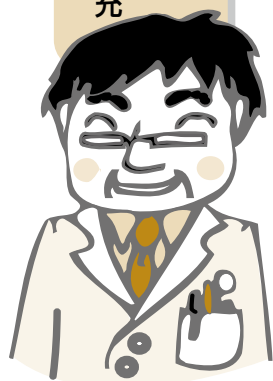


健康百科

高齢者の心不全について

深川内科クリニック 院長 山崎

充



はじめに

2018年厚生労働省の人口動態統計によると、日本人の死因の3大死因は、第1位が癌、第2位が心疾患、第3位が老衰と報告されています。75歳以上では、心疾患が死因の第1位です。近年、心不全は急激に増加しており、医療界では「心不全パンデミック」と云われています。

心不全増加の原因として、急速に進んだ高齢化と生活習慣の欧米化による狭心症、心筋梗塞が増えたことが指摘されています。心不全の患者数は2020年には120万人を超えると推測されており、その半数以上が75歳以上の高齢者です。

①心不全とはどのような病気か

日本循環器学会は、一般の方でも理解しやすい心不全の定義を作成しました。『心不全とは、心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める病気です。』と決めました。

②心不全の原因

高血圧、心筋梗塞、狭心症、弁膜症が大部分ですが、糖尿病、肺気腫、甲状腺疾患、慢性腎臓病、貧血等、多くの病気が原因となります。

③心不全の症状

労作時の息切れ、動悸、むくみ、疲れやすい、食欲不振等がありますが、心不全の初期や軽症な場合、無症状のこともあります。心不全の重症度を一般の人でも理解しやすいニューヨーク心臓病協会の心機能分類があります。I度か

らIV度まで分類されています。I度は無症状、II度は普通の身体活動で息切れ、動悸がある場合、III度はわずかな身体活動でも同様の症状があり（安静時には症状がない）、IV度は安静時でも呼吸困難や動悸がある最も重症な心不全です。高血圧や糖尿病、脂質異常といった持病のある方は軽い症状でもすぐにかかりつけ医を受診してください。

④心不全治療の進歩により長寿は可能

心不全となった場合でも、軽度のうちに治療を受けると平均寿命を超えてもお元気な患者さんは珍しくありません。心筋を保護するβブロッカー、レニン、アンギオテンシン、アルドステロン抑制剤といった薬が以前より開発・使用されており、目覚ましい効果が証明されています。また、心筋梗塞や狭心症にはカテーテルによるステント留置が行われおり、成果を上げています。最近では、大動脈弁狭窄症もカテーテル法による大動脈弁置換が可能となり、高齢で全身麻酔による手術が不可能な患者さんも治療可能となりました。同じように僧帽弁閉鎖不全もカテーテルによる弁形成術ができるようになり恩恵を受ける患者さんが増えています。

おわりに

心不全になったら長くは生きられないといった時代は終わりました。大切なことは、心不全を予防することです。そのためには、高血圧、糖尿病の方は治療を中断せず続けてください。また動悸、息切れ等の症状が出たときは、様子をみずに、かかりつけ医を受診してください。

JAグループ北海道からののお知らせ

あれから1年。

2018年9月6日に発生した北海道胆振東部地震。

この1年間、北海道の農業は復興への取り組みを続けてきました。

これまでに全国の皆さまからいただいたご支援に感謝するとともに、

「9.6」という日を忘れずに、より強い北海道農業をめざして。

これからも私たちは食の安全と安心を守って参ります。



感謝の気持ちを
動画でお届け
いたします。

あれから1年

ありがとう! 頑張っています!

左のQRコードの読み取り、またはURLを入力してください。
<http://ja-dosanko.jp/tv/cm.php>



飛田 稔章
北海道農業協同組合中央会会長

全道・全国からの多くの
心温まるご支援に、
心からお礼申し上げます。

北海道胆振東部地震では、組合員による被災組合員への支援、JA役員や連合会による被災JAへの支援、そして、生協組合員の皆様から多大な義援金を頂くなど、「協同組合の力」を再確認させて頂きました。私たちJAグループ北海道は今後も、被災された組合員を支援して参ります。



鈴木 直道
北海道知事

北海道農業の
一日も早い復興に向けて、
全力で取り組んで参ります。

北海道胆振東部地震から1年が経過しました。この間、多くの皆様から多大なるご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。復旧・復興は着実に進み、被災した農地の一部でも農業が再開し、豊かな実りが期待されます。北海道の農業が一日も早く復興し、自然の大きな恵みをお届けできるよう、全力で取り組んで参ります。



麻田 信二
北海道生活協同組合連合会会長

生協は、安全でおいしい
食べ物を生産する
北海道農業を応援します。

全国の生協及び生協組合員の皆様から、3億6千5百万円という多額の支援募金をいただきました。被災自治体に加え、日本の食料自給率の向上に懸命に取り組んでいるJAグループ北海道に1億円をお渡しすることができました。ご支援いただきました皆様に心から感謝申し上げます。



北海道胆振東部地震に際しまして、日本全国からたくさんの応援や募金を頂きました。
深く御礼申し上げます。

JA グループ通信

JA 北海道中央会



7月31日にJA北海道中央会と各連合会の役員にて、吉川農林水産大臣を含む農林水産省幹部職員及び道内選出与党国会議員等に対して、令和2年度国費予算概算要求に向けた要請運動を実施いたしました。「持続可能な北海道農業の確立に向けた政策提案」に基づき、農業予算の万全な確保に加え、国際貿易協定・交渉対策や労働力確保対策に向けた支援強化、各作物の需給安定対策の構築等を要請しました。また「食料・農業・農村基本計画」と「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」、「経営所得安定対策の交付単価」の見直しに向けては、家族経営基盤の維持・強化の視点や生産現場の実態を踏まえた議論を進めるよう要望しました。

引き続き、JAグループ北海道の政策提案の実現と日米貿易協定交渉については、「農業経営や生産基盤に影響がでないよう適切な国境措置の確保」、「北海道農業を犠牲としない毅然とした対応」を政府・与党に求め、今後も北海道の農家・組合員が安心して営農できるよう取り組んで参ります。



JA 北海道信連



地元プロ野球チーム・ファイターズのスポンサーイベントデーとして、7月19日、JAバンク北海道スペシャルナイターを札幌ドームで開催しました。本イベントは、昨年に引き続き2回目になります。今回は、新たにJA特産品の物販コーナーを設けた他、参加JAの女性職員から対戦チーム両監督への花束贈呈を行いました。また、中央会などとも連携して、サポーターづくりに向けたPRを実施しました。



JA 共済連北海道



7月18日に札幌・共済ホールにて「全道LA・スマサポ大会」が開催され、平成30年度普及活動で優秀な成績を収められたLA33名と、スマイルサポーター11名が登壇し表彰されました。

JA共済では、これからも「3Q訪問活動」と「あんしんチェック（保障点検活動）」の実践を通じて、組合員・地域利用者の信頼と期待に応え、「安心」と「満足」の提供に努めてまいります。



ホクレン



ホクレンと北海道日本ハムファイターズが連携して、同球団の発信力を生かして北海道農業の魅力を伝える「北海道農業応援プロジェクト」の取り組みが6月28日より開始しました。その一環として、7月13日に同球団マスコットの「ポリー」と「B☆B」が、ホクレン食と農のふれあいファーム「くるるの杜」にて、窯焼きピザを調理する体験イベントを開催し、消費者との交流を深めながら北海道産農産物のPRをしました。



JA 北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

このたび紙面をリニューアルし、より読みやすくさらに健康に役立つ医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。

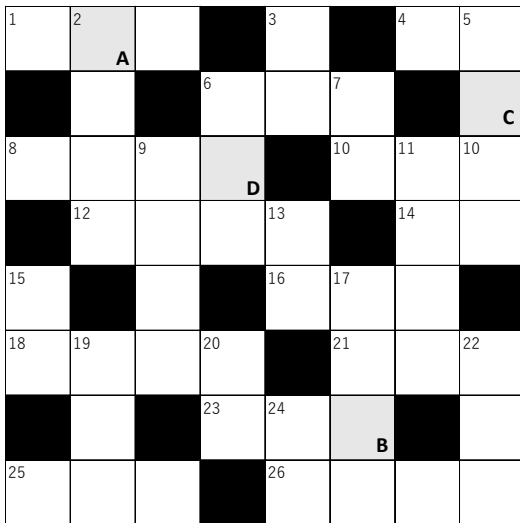


JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介いたします。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



クロスワードクイズ

提供元:クロスワード.jp



A	B	C	D
---	---	---	---

8月号の正解は

「ヒマワリ」でした。

正解者の中から抽選で3名が選ばれました。

深川市 浦滝美佐子 様
 深川市 尾谷 幸子 様
 北竜町 高畑ツヤ子 様

【タテのカギ】

- 2 飛行中の航空機が急速に速度を失うこと
- 3 イングレン、ソラ、ヒヨコ、エダ
- 5 主に球根を食用として食べる野菜、オニオン
- 6 洋食のテーブルマナーで右手に持つもの
- 7 非常に細かく砕いたもの、粉末
- 9 文章や詩を気持ち込めて読み上げること
- 11 体を鍛え強くするための運動をする教科
- 13 雨や雪などを降らす空に浮かんでいるもの
- 15 京都の南部に所在する市、抹茶が有名
- 17 合図のために片目でまばたきすること
- 19 風呂から上がったあと、体が冷えて寒く感じる
- 20 しっかりと分別して捨てましょう
- 22 雷を伴った激しい雨
- 24 葉は梅干しの着色に使われる、香りの良い一年草

【ヨコのカギ】

- 1 様々な色糸を用いて織り出された絹織物の総称
- 4 種子のまわりに白くて長い毛をつける植物
- 6 粘膜で覆われたきのこの一種、みそ汁の具としても人気
- 8 衣服やその柄が同じであること、ペアルック、アベック
- 10 アブラナの種子、食用油にもなる
- 12 お腹がすくこと
- 14 違った意見、異論
- 16 すさまじい勢い、猛烈な威力
- 18 二文字以上の漢字が結びついて一つの意味を表す言葉
- 21 サケやマスの卵をほぐして塩漬けにした高級食品
- 23 布や革などを縫い合わせたり、刺繍を施すのに使う機械
- 25 土木・建築・機械などの構造や設計を詳細に示した図
- 26 ニュース番組などで情報を素早く知らせること

応募方法

正解者の中から抽選で3名様に農協全国商品券をプレゼント。ホームページ応募フォーム・ハガキ・FAXで①クイズの答え②住所、氏名、年齢③身近な出来事④農協だよりに対するご意見ご要望を記入の上ご応募下さい。
 締切10月31日消印有効で当選者とクイズの答えは12月号に掲載します。

【送り先】〒074-0022 深川市北光町1丁目10番10号

JAきたそらち総合企画室企画広報課

FAXの場合は 0164-22-8611

【ホームページ応募フォーム】

URL: http://www.ja-kitasorachi.com/application_form/

九月俳句

● 雨電俳句会

とりどりのカサブランカ咲く空家かな
 手鍛研ぎ一心不乱草を引く
 浴衣着て孫に褒めらし面はゆし
 朝顔に鼻づらびたり犬可笑し
 今朝よりの稲穂顔出す風優し
 夕涼しやと畑に顔を出し
 盆用意集ふ笑顔を楽しみに

有田 茉莉
 大林アヤ子
 北川 満江
 小山 邦男
 松木 五月
 宮武めぐみ
 吉見サヨ子

● 「道」俳句会 北電支部

朝顔や今日やる事の顔ふたつ
 空知野へ新元号の稲アート
 美丈夫の法話の間を月鈴子
 金秋の雲と浮くまで村熟れる
 田園の中に肩張る蕎麦の花
 手鏡を磨けば澄めり秋の沼
 水差しに括れがありて青瓢
 豊作の兆しを運ぶ里の風

山本 玲子
 阿部れい子
 吉尾 広子
 山岸 正俊
 山下 好晴
 佐光久美子
 杉本 隆文
 高田 紀子

● 土筆俳句会

平手打ちされて西瓜の音を買ふ
 墓まゐり向かふ車窓に船の白
 コスモスに昨日とちがふ風の私語
 生まれ出てきこそその幸よ夏の蠅
 ふんわりと葉に身を寄せる秋の蝶
 農夫等の希望の稲穂頭垂る
 母を診るまなこさやけし若き医師

高尾美津子
 池田 美知
 坂本 朱実
 引地紀代子
 山川 輝子
 南川富美子
 小橋 厚子

第9回理事会 〈令和元年9月4日開催〉

1. 関係団体等諸会議について
2. 組合員の加入脱退について
3. 財務報告及び事業実績について
4. 不詳事未然防止に係る内部牽制機能の一斉点検結果について
5. 職員の人事について
6. 固定資産の取得・修繕について
7. 平成30年度 連合会・関係団体の概況について
8. 反社会的勢力等との取引状況について
9. マネーローンドリング等の取引状況について
10. 令和元年度 第2四半期 コンプライアンス事故報告について
11. JA共済相談・苦情等対応状況に係る定期報告について
12. ALM委員会の報告について
13. 貸出金の貸付報告について
14. 理事に対する貸出（連帯保証）報告について

15. 令和元年度「経営所得安定対策」の申請状況について
16. 令和元年度「土地改良事業」の実施に伴う入札結果について
17. 令和元年度「農地耕作条件改善事業（ソフト事業）」に係る取り組みについて
18. 令和元年産うるち・もち米全道共計概算金について
19. 主要農作物の生育状況（8月15日現在）について
20. JAきたそらち産米 米袋デザインについて
21. 令和元年産そばの出荷状況について
22. 畜産物販売実績について
23. 青果・花き集荷販売実績について
24. 青果・花き 軽減税率精算処理における販売代金の精算処理について
25. 令和元年度 春肥料予約奨励金ほかの支払について
26. 経済部事業実績について

議案第1号 みのもり監査法人 期中監査Ⅰ結果概要報告について

議案第2号 令和元年度 上半期決算について

議案第3号 寒冷地手当の支給について

議案第4号 職制規程（職務権限表）の一部改正について

議案第5号 令和元年産米の取扱について

議案第6号 令和元年産「玄そば・小豆・大豆」の取扱について

議案第7号 令和元年産米に係るJA概算金の設定について

議案第8号 深川マイナリーにおける色彩選別機の導入について

議案第9号 令和元年度 温湯消毒施設の導入について

組合員の動き

（令和元年8月末日）

		当期首	加入	脱退	当月末
正組合員	個人	1,402	15	26	1,391
	団体	85	1	0	86
准組合員	個人	5,988	82	48	6,022
	団体	329	1	0	330
正組合員戸数		1,015	1	14	1,002



JAきたそらち太陽光発電所 発電実績

○令和元年8月実績

○累計（H30.12～R1.8）

発電電力 **53,478kWh**

発電電力 **429,229kWh**

計画対比 + 6,083kWh

計画対比 + 97,133kWh

前年対比 + 2,730kWh

前年対比 + 27,945kWh

金融共済部 渉外課からのお知らせ

転載不可